

爆走坂東組日記

2006



おう、2006年のレースもすべて終わり、先生も走る師走がやってきたな。木枯らしがピーピー吹いて、身体も寒い、オレはふとこころも寒い。でも、心は真夏の太陽なみに燃えている。もちろん07年のレースに向けてのことだ。とは言うものの、翌年のことを話すと鬼が笑うってことで、まずは06年の締めくくりとなった最終戦の話を聞いてくれや。前回のオートボリスの結果、最終戦の富士で1ランクアップの救済を受けたオレたちは、当然このレースで優勝を狙っていた。セリカにとっても、富士スピードウェイはホームコースだから、有終の美ってヤツを飾らせてやりたかったんだよね。レースウィークは3日間とも晴れてくれたんで、オレたちはまず金曜日にタイヤチョイスをやった。その結果、予選から決勝前半用として選んだのは、通常よりソフト目のタイヤだった。富士ではストレートがめちゃくちゃに速いライバルマシンが何台もいたんだけど、そのなかでも

予選上位を目指していたからな。でも、ソフトでは十分ロングランができていなかったんで、決勝ではスターターの松田で行けるところまで行って、後半シグでロングステイメントってことも考えていたんだ。そして予選を迎えたわけだけど、1回目のアタックはまずまず。だけど、1分41秒のタイムは見えなかった。スーパードラップでも、梁山泊のMR-Sがセクター1とセクター2をまとめて、ウチより前に行っちゃまうだろうなって思ってたよ。何たってセクター3だけで、ウチよりコンマ5秒も速かったからな。でも、午後のスーパードラップでは、予想どおりのことが起こっちゃった。ウチもブレーキをロックしたり、ちょっとしたミスがあったから、もう少しタイムを上げて42秒フラットぐらいはいけたかもしれない。でもな、最後に出走した梁山泊のセクター1、セクター2のタイムを見て、ウチとコンマ1秒しか差がないって分かった時点でPは獲られちゃったと思

最終回

セリカ最後のレース(!?)は悔しい2位に

ったよ。だから、セクター2までサインガードを見て、もうビットの中に引込もうと思ったら、オレの横にテレビカメラが張り付いてたんだよね。だから、ちよつとカッコつけてみた(笑)。アイツら、オレが「やられた」っていう顔をして悔しがってるのを撮りたいみたいだったから、期待に応えてやったんだよ。でも、決勝レースでは、梁山泊のエンジンがかからなくてビットスタートになったから、実質ウチがPになったんだよね。



予選2番手から決勝へ向けての士気上がる日曜朝のフリー走行へ走り出すウェッズスポーツセリカ。

スタート前、タイヤのライフには不安があったね。だから、松田には「ストレートが速いマシンと勝負して抑え込むと、ステイント後半がツライ、ポジションは少しぐらい落としても構わない。とにかくできるだけタイヤを保たせてくれ」って言ってあったんだ。案の定、スタートしたら、真っ直ぐが速いクルマに前に行かれて、ウチは3番手。でも、GT500クラスとの絡みで、突然前の2台がスピンしてなくなっちゃった。それでトップに返り咲いたところでビットインしたんだけど、同時にビットインしたR&Dのヴィーマックが先にビットアウトして行くのを見てビックリしたよ。

シゲに交代してからは、トイーストリー号がいいペースで来ている、こつがタイヤをセーブしている段階で抜かれちゃった。それを終盤まで追いつけて、最後に勝負と思ったんだけど、相手もそりゃ必死でブロツクするから、結局は抜けなかったんだよね。で、チェッカー受けた後も、3位だと思ってた。ところが、ビットでウチを抜いて行ったヴィーマックが止まっていて、ウチは2位。もちろん優勝を目指していたの2位だから、それは残念だった。でも、セリカにとって最後かもしれないレースでお立ち台に上がったのは良かったな。ま、でも、07年もオレがいないとレースにならないし、GTエントラント協会会長としても頑張るんで、楽しみにしてくれや。

GT300 Race Report ROUND 9

ウェッズスポーツセリカ、2006年SUPER GT最終戦を2位表彰台で飾る

ついに迎えた2006年SUPER GTシリーズの最終戦。レースウィーク金曜日のフリー走行でGT300クラスの総合トップタイムをマークし、順調なすべり出しを見せたウェッズスポーツレーシングwithバンドウ。翌土曜日にこなされた午前中の予選でも3番手を獲得し、スーパードラップ進出を果たす。そのスーパードラップでは8番目に登場、第2&3セクターで前走車を上まわる1'42"289をたたき出し、暫定トップに浮上する。最終アタック車両に逆転を許すものの、見事フロントロウを獲得した。日曜日の決勝ではボールのマシンがダミィーグリ

ッドにつけず、波乱の幕開けとなった。これで実質ポールスタートとなったウェッズスポーツだったが、1周目終了のストレートで最高速に勝る後続車に先行を許す。さらに12周目に3番手に後退するも、29周目に上位2台がGT500マシンと接触し、その間にトップを奪回。その翌周にビットイン、松田晃司から脇阪薫一へとドライバー交代を行ないコースへと復帰する。残り10周で3秒以上あった差を脇阪が最終ラップにはコンマ差にまで詰め寄る。さらにトップの車両がガス欠でマシンを止め2位に浮上。今季最終戦を表彰台で飾った。

GT300 Race Result ROUND 9

11月5日 晴れ/ドライ 参加42台・出走42台・完走39台
富士スピードウェイ/4.563km×66周=301.158km

順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選/タイム
1	101	新田守男/高木真一	TOY STORY Racing MR-S	MI	61	1'44"040	12'142"960
2	19	松田晃司/脇阪薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	61	1'44"149	2'142"289
3	13	影山正美/藤井誠樹	エンドレスアドバンCCIZ	YH	61	1'45"056	5'142"482
4	777	田中実/大崎和也	梁山泊 apr MR-S	MI	61	1'43"564	1'141"778
5	88	M.アピチュラ/松井保孝	アクティオ ムルシエRG-1	YH	61	1'44"624	16'143"585
6	7	山野哲也/井入宏之	南宮アスパラドリンクRX7	YH	61	1'44"396	11'142"959

※ベストラップ: No.777 梁山泊 apr MR-S 1'43"564 4/61 158.615km/h